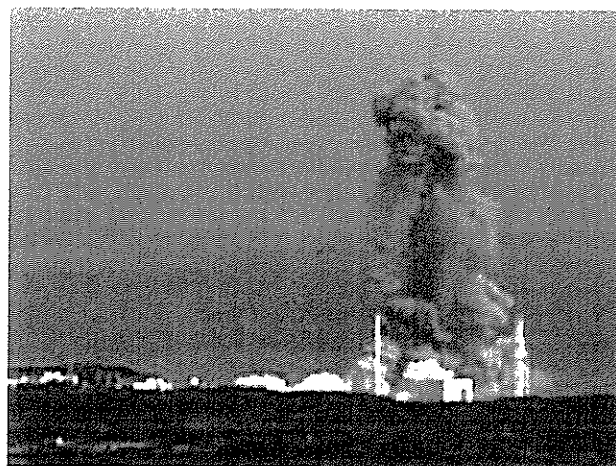


原子力発電所で災害が起これば、篠山市はどうなるんだろ

# 篠山市民原子力防災学習会



日 時 平成 26 年 2 月 13 日(木)

場 所 丹南健康福祉センター

日 時 平成 26 年 2 月 20 日(木)

場 所 篠山市民センター

主 催 篠 山 市

1. 開会あいさつ

2. 「篠山市の原子力防災対策」

篠山市市民生活部長

3. 「原子力災害の特徴を知って、防災対策を考える」

守田 敏也氏(フリージャーナリスト)

4. 質疑応答

5. 閉 会

## 篠山市における原子力防災対策について

篠山市市民生活部市民安全課

篠山市は、高浜原発から 50 キロメートルないし 70 キロメートルの距離にあります。兵庫県は昨年 4 月に福井県内の原子力発電所で万一事故が発生し、福島第一原発並みの放射性物質の放出があった場合の拡散シミュレーションを発表しました。高浜原発の場合、篠山市では 1 歳児の甲状腺被ばく線量が 7 日間で 167 ミリシーベルトに達し、国際原子力機関（IAEA）が定める基準の 3 倍を超える結果となり、県下で最も原発事故の影響を受けることが想定され、篠山市においても原子力災害対策の必要性が求められています。

このことから、いつ起こるかわからない原子力災害に関心を持ち、市民一人一人が原子力災害対策について理解を深めていただき、安心して暮らせる市になるよう取り組んでいます。

### 1. 篠山市原子力災害対策検討委員会の設置について

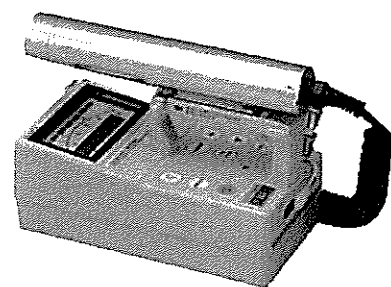
東日本大震災の教訓を踏まえ、篠山市でも原子力施設の事故に伴う災害が起こること想定し、平成 24 年 10 月にその対策を検討するため、放射線の専門家である兵庫医大の上紺屋教授をはじめ、ジャーナリストの守田敏也氏、自治会長会、医師会、消防団、及び公募市民で構成する篠山市原子力災害対策検討委員会（委員長 平野副市長）を立ち上げて、災害対策の検討を行ってきました。



まず平成 24 年度は早急に取り組むべき対策として、安定ヨウ素剤の備蓄、放射線測定の実施、原子力防災に関する啓発についての協議を行いました。さらに、平成 25 年度は事前対策部会と応急対策部会に分かれ、事前対策部会は部会を 7 回開催し、地域防災計画を検討しながら、主に市民への啓発事業、防災訓練などの議論を行いました。また、応急対策部会でも部会を 6 回開催し、主に安定ヨウ素剤の備蓄等について議論を行ってきました。

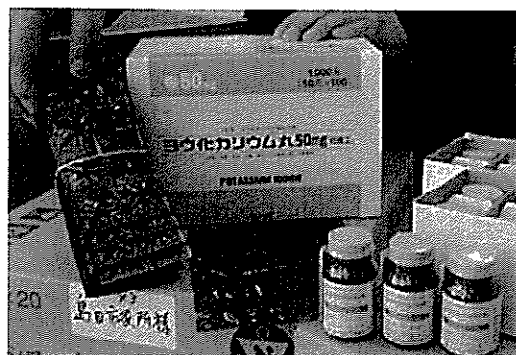
#### （ア）放射線測定

本庁には、シンチレーション放射線測定器を設置し、各支所、大芋小学校西紀北小学校には簡易型の放射線測定器を設置しました。昨年 11 月から測定を行い、市役所の測定結果を毎月ホームページで公表しています。



### (イ) 安定ヨウ素剤の備蓄

放射性ヨウ素の体内への取り込みを防ぐため、5万人分の安定ヨウ素剤の備蓄をします。備蓄場所は本庁、丹南健康福祉センター、東雲診療所、草山診療所、今田診療所の5箇所としています。緊急時の配布については、原子力災害対策検討委員会で、いち早く配布ができる方法を検討して、配布場所並び配布方法を市民の皆さんにお知らせする予定です。



### (ウ) 原子力防災に対する市民への啓発

市民の意識を高めるため平成26年1月19日に原子力防災フォーラムを篠山市民センターで開催し、自治会長、消防団員等200名を超える市民の参加がありました。その中で、講師の守田敏也氏は「人間は災害が起こった時、自分は大丈夫だという心理が働き、避難をしようとしな。また災害に備えて日頃の訓練が大切である。」ことなどを講演されました。パネルディスカッションでは、各パネラーから原子力災害



に対する理解を深めるための市民への啓発、地域のコミュニティづくりの重要性など、これからの原子力防災対策について貴重なご意見をいただきました。更に地域の取組みとして、日置地区、西紀北地区では防災訓練の中で、西紀地区では人権教育研究大会において原子力防災学習を行っていただいています。

## 2. 東日本大震災被災者への支援

現在、被災された8世帯22名の方が福島県などから避難をされています。被災された方々の支援を行うために、平成23年度から被災者生活一時金の支給、市営住宅の提供、また、平成25年度からは民間住宅に住居された方の家賃補助を、被災地及び被災者の方々への復旧復興につながる市民団体の事業に対して支援を行っています。

## 3. これからの取組み

安定ヨウ素剤の事前配布に向けた取組みとして、市民のみなさんが原子力防災について、知識と理解を深めていただけるよう、地域や団体学習の取組みを積極的に進めて行きます。

## 水害・原発災害に対する心得 保存版

篠山市原子力災害対策検討委員会委員 守田敏也 ブログ「明日に向けて」参照  
知っておきたい心の防災袋(防災心理学の知恵)

### 1、災害時に避難を遅らせるもの

- 正常性バイアス⇒避難すべき事実を認めず、事態は正常と考える。
- 同調性バイアス⇒とっさのときに周りの行動に自分を合わせる。
- パニック過大評価バイアス⇒パニックを恐れて危険を伝えない。
- バイアス解除に最も効果的なのは避難訓練。

### 2、知っておくべき人間の本能

- 人は都合の悪い情報をカットしてしまう。
- 人は「自分だけは地震(災害)で死なない」と思う。
- 実は人は逃げない。
- パニックは簡単には起こらない。
- 都市生活は危機本能を低下させる。
- 携帯電話なしの現代人は弱い。
- 日本人は自分を守る意識が低い。(備蓄が大切！)

### 3、災害時！とるべき行動

- 周りが逃げなくても、逃げる！
- 専門家が大丈夫と言っても、危機を感じたら逃げる。
- 悪いことはまず知らせる！
- 地震は予知できると過信しない。
- 「以前はこうだった」ととらわれない。
- 「もしかして」「念のため」を大事にする。
- 災害時には空気を読まない。
- 正しい情報・知識を手に入れる。

心にとめおきたい避難の3原則(社会災害工学の知恵)

### 1、想定にとらわれない

- ハザードマップを過信しない。
- 想定はあくまでも人間の推論。それを超えることがありえる。
- 行政の判断に頼りきらない。危機を感じたらすぐに行動する。

### 2、いかなる状況においても最善を尽くす

- 自分や周りの人の命を守るために最善の道は何かを考えて行動する。
- 災害で絶対に助かる道はないことを踏まえつつ、最善を尽くす。
- 大事なものは普段の蓄積。いざというときのための準備を重ねておく。

### 3、率先的避難者になる

- 自分が逃げ出せば他の人も逃げ出す。人を救うためにもまず自分が逃げる。
- 自分と人を逃がすことを最優先する。救助はあとから(津波てんでんこ)。

## 水害・土砂災害にどう対処するか

### 1、土砂災害の前兆を知る。

#### 土石流

- 山鳴りがする。
- 急に川の流れがにごり、流木が混じっている。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。
- 腐った土のおいがする。

#### 地すべり

- 沢や井戸の水がにごる。
- 地面にひび割れができる。
- 斜面から水がふき出す。
- 家や擁壁に亀裂が入る。
- 家や擁壁、樹木や電柱が傾く。

#### がけ崩れ

- がけに割れ目が見える。
- がけから水がふき出ている。
- がけから小石がパラパラと落ちてくる。
- がけから木の根等の切れる音がする。

### 2、避難の判断

- 市町が自主避難を呼びかけたら。
- 前触れと思われる現象(前兆現象)を発見したら。
- 近く(同じ市町内や隣接する市町)で土砂災害が発生したら。
- これまでに経験したことのない雨を感じたら。

### 3、水害・土砂災害対策5原則

- 「情報は待たずに、自分で取りに行く」  
気象庁HP レーダー・ナウキャストなど
- 「遠くの避難場所より、近くの二階」  
ただし流失の可能性があるかどうか普段から確認
- 「念のため、明るいうちの自主避難」
- 「避難時は、隣人・弱者に声かけて」
- 「防災は、自助と近助と助け合い」

### 4、警報でも十分危険、特別警報はものすごく危険

- 警報を過信しない！気候変動により「想定外」の事態が多発している！

## 原発災害への対処法

### 1、原発災害への備え

- 一番大切なのは避難訓練。災害と避難をシミュレーションしておく。(位置、天候など)
- 遠くの知人と防災協定を結び、互いの避難先を確保し、家族・恋人などと確認しておく。
- 家族(子ども)と落ち合う場所を決めておく。
- 持ち出すもの(防災グッズとお金で買えない一番大事なもの)を用意しておく。

## 2、情報の見方

- 出てくる情報は、事故を過小評価したもの。過去の例から必ずそうなる。
- 原発は事故時には計器が壊れ、事態が把握できなくなる構造を持っている。
- 運転員も正常性バイアスにかかりやすく、事故の認知が遅れる。
- 政府の安全宣言は信用できない。(パニック過大評価バイアスへの対応)
- 周囲数キロに避難勧告がでたら 200 キロ超でも危険と判断。(避難区分を信じると危険)

## 3、避難の準備から実行へ

- 風上に逃げるのがベスト。判断できないときは西に逃げる。
- マスクを濡らし重ねて着用し頻繁に替える。帽子を必ず被る。肌の露出は最小限に。
- 雨にあたることを極力避ける。降り始めの雨が一番危ない。傘、雨合羽必携。
- 可能な限り遠くに逃げ、着いた先の行政を頼る。
- 落ち着いて行動し二次災害を避ける。
- 避難ができない場合は屋内に立て籠る。水・食料を備蓄しておく。(最低一週間分)
- 立て籠る場合は換気扇やエアコンは使わない。すきま風が入る場合は目張りする。
- 避難のときも立て籠るときも、外気に触れたときは、うがい手洗いを徹底する。
- インフルエンザ対策、花粉症対策を応用して、内部被曝を避ける。

## 放射線被曝についての心得

### 1、福島原発事故での放射能の流れと被曝状況

- 福島原発事故では風の道＝人の道に沿って放射能が流れた。
- 被曝範囲は東北・関東の広範囲の地域。京都にも微量ながら降っている。
- SPEEDI の情報隠しなど、東電と政府の事故隠しが被曝を拡大した。
- 子どもの甲状腺がんをはじめ、健康被害が広がっている。

### 2、放射線に関する基礎知識

- 放射能から出てくるのは $\alpha$ 線、 $\beta$ 線、 $\gamma$ 線。体への危険度もこの順番。
- 空気中で $\alpha$ 線は 45 ミリ、 $\beta$ 線は 1m しかとばず、 $\gamma$ 線は遠くまで飛ぶ。
- このため外部被曝は $\gamma$ 線のみ。内部被曝ですべてのものを浴びる。
- より怖いのは内部被曝。外部被曝の数百倍の危険性がある。(ECRR)
- 放射能には半減期(放射線を出す力が半分になる期間)がある。
- 事故直後は半減期の短いものから放射線がたくさん出るため放射線値が高い。

### 3、被曝の避け方

- 外部被曝を避ける⇒放射線を遮蔽、線源から離れる、線量の十分低いところに避難。
- 内部被曝を避ける⇒放射能の吸引、飲食を避ける、汚染されていないところに避難。
- まずはとっとと逃げる。事故の推移はあとから確認し、安全が確認できてから戻ればよい。

## 放射能との共存時代をいかに生きるのか

- 元を断つ。すべての原発を止め、解体し、真の安全を確保する。
- 被曝の影響と向き合う。被曝した人を労わり、あらゆるヒバクシャ差別とたたかう。
- あらゆる危険物質を避け、免疫力を高める。命を守る運動を起こす。
- 前向きに生きる。楽しく生きる。意義深く生きる。そのことで免疫力をアップする。

## 福島原発は今どうなっているのか 放射能とは何かいかに身を守るのか

20140213 守田敏也 morita\_sccrc@yahoo.co.jp

Blog「明日に向けて」[http://blog.goo.ne.jp/tomorrow\\_2011](http://blog.goo.ne.jp/tomorrow_2011)

HP「明日に向けて」<http://toshikyoto.com/>

FACEBOOK <http://www.facebook.com/toshiya.morita.90> Twitter @toshikyoto

### 1 原発と放射能汚染の現状

#### ○広域に広がる汚染

(a)汚染の現実⇒東北だけでなく関東も激しく汚染されている

放射線をめぐる重要な数値

⇒年間 1mSv、1 時間では 0.114  $\mu$ Sv、放射線管理区域 0.6  $\mu$ Sv/h

(b)福島および原発事故被災地の現実

小学校の周りで高い放射線量が⇒被曝が放置

(c)広がる健康被害

100 万人に 1 人の甲状腺がんが、25 万 4 千人中、すでに約 74 人発症！

しかも二次検査の半数⇒実際には 100 万人に 420 人以上の数

突然死が増えている！

(d)福島原発は瀕死の状態

1 号機から 3 号機は近づけない⇒何が起きているのかも分からない。

4 号機には大量の燃料棒⇒倒壊が最も懸念される。

燃料棒取り出しをめぐる問題点

(e)汚染水問題の現状

メルトダウンした燃料の冷却により汚染水が発生⇒大量の地下水が流入

⇒海に毎日 400 トン流出⇒ストロンチウムを含む膨大な放射能の拡散

(f)東京オリンピックを返上し、事故収束に全力を！

今の日本にオリンピックの余裕などない！事故収束に全力をあげるべき。

収束するまで事故拡大の危機は消えない⇒避難の促進、準備・訓練を！

### 2 放射線の影響をいかにみるか。どこから考えるか

#### ○人体実験だった原爆投下

(a)なぜ二つの原爆が落とされたのか

広島・・・ウラン型 長崎・・・プルトニウム型

(b)原子炉の目的 ⇒プルトニウムの製造 (プルトニウム生産炉)



○放射線の影響はどこで見積もられたのか

(a)広島・長崎原爆と被爆者調査

⇒米軍→原爆傷害調査委員会（ABC C）→放射線影響研究所

(b)放射線の危険性の過小評価と内部被曝隠し

⇒核兵器肯定のために危険性が非常に過小評価されてきた

⇒原子力の平和利用の開始・・・日本への原発の導入

○原爆症認定訴訟と明らかにされた内部被曝の実相（矢ヶ崎氏の研究から）

(a)放射線の物質に対する影響のメカニズム⇒電離作用と分子切断

(b)放射線の種類と外部被曝と内部被曝の違い⇒危険差は数百倍

⇒参考書『内部被曝』岩波ブックレット 『隠された被曝』新日本出版

### 3 放射能との共存時代をいかに生き抜くのか！

○被爆医師、肥田舜太郎さんの提言から考える

(a)被曝を避けるには

⇒放射能の元を絶つ⇒脱原発を推し進める

⇒できるだけ放射能を体に入れない

汚染地帯から可能な限り遠ざかる and 行かない。

汚染のあるところではマスク・うがい・手洗いを徹底化する。

（インフルエンザや花粉症対策）

⇒汚染された食べ物を避ける

汚染されやすいもの→魚貝類、山の幸

汚染が入り込みやすいもの→外食産業、加工食品

⇒放射線測定を進める

市民放射能測定所の活用を！

(b)被曝したらどうするのか・・・命の大切さを自覚し、長生き運動を起こす

⇒腹を決め、開き直り、覚悟を決める。免疫力を上げ、病を押さえ込む

⇒体調不良を軽視せずに対処を。とくに心臓疾患への備えが大事

⇒お年寄りから長生きの秘訣を聞く、太古の生き方を尊重する

(c) 被曝の影響に立ち向かう。ヒバクシャ差別と闘う！

○前向きに生きて、困難をみんなで越えていく！

(a)危険な食べ物を避けるだけでなく、食べ方が大事

⇒よく噛むことが基本！家族・友人・仲間と楽しく食事を！

(b)温かな触れ合い、豊かな人間関係が、免疫力も上げていく！

⇒前向きに生きること、共に未来への可能性を分かち合っていくことが大事

(c)そのために被災地の苦しみを忘れずシェアし続ける

⇒原発再稼働反対の声を高めた東北・関東の人々に感謝と握手を！

# × 毛

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---